

水溶化で分離

使用済み紙おむつのリサイクル工場「リブ・フォレスト大牟田」が、大牟田市の「大牟田エコタウン」に完成した。紙おむつはこれまで焼却処分の対象になっていたが、水溶化技術を導入し、原料のパルプを回収、販売する。この種の工場が稼働するのは全国初という。

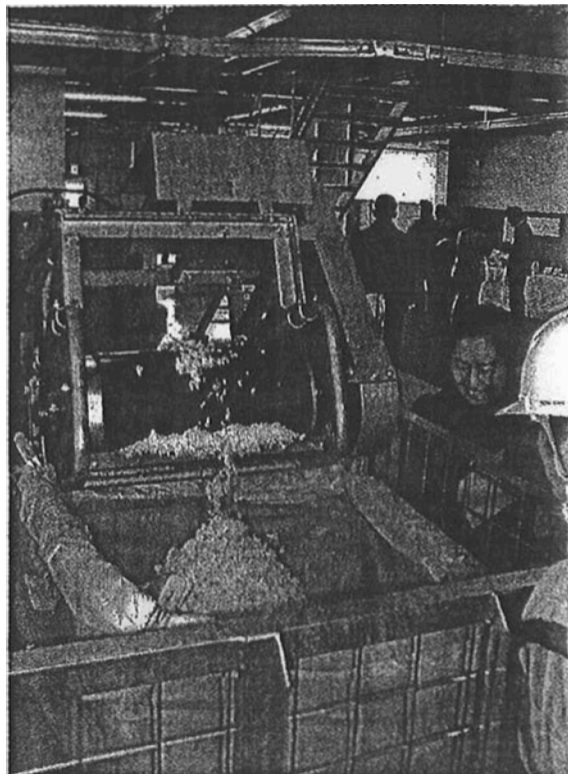
防火板などの原料に

大牟田に工場完成

紙おむつのメーカーや販売業者、医療機関などでつくる「トータルケア・システム」(福岡市)が約6億円をかけて建設した福岡、佐賀、熊本県の病院、高齢者施設などから回収した紙おむつを、薬品が入った水で溶かし、パルプとビニール、排せつ物を含んだ汚泥に分離する。

2000年6月に「産学官共同研究開発事業」の採択を受け、県と福岡大、プラントメーカーなどが共同で開発に取り組んできた。1日約20トン(約10万枚)

を処理し、約2・5トンのパルプを作る能力がある。当面は1日約12トンを処理し、紙おむつの需要は年々増え、紙おむつの原料と続けており、日本衛生材料工業連合会(東京)による、2003年に約17万7300トンだった生産量は、08年には約21万7500トンに達する見通しという。



再生されたパルプ